

○芸術文化創造センター地域説明会（十字地区） 概要

- 1 日 時：平成 26 年 6 月 26 日（木）
- 2 場 所：市民会館 6 階 第 7 会議室
- 3 説明者：文化部長、文化部副部長、芸術文化担当課長、芸術文化創造センター整備係長 2 名
- 4 傍聴者：46 名（十字地区 24 名、その他 22 名）
- 5 内 容：小田原市芸術文化創造センターの基本設計と整備について
- 6 質疑応答

市 民：交通の分散について、資料に数字が書いてあるが、交通を止めた時の数字なのか。

センター整備係長：現況の数値は、昨年実施した交通量調査の実測値である。廃止後の数字は、この実測値をもとに、廃止後の通行量を計算したものである。

市 民：それでは、廃止後の数字は、実際に市道 2 1 9 7 を通行止めにして数えた数字ではないのか。

センター整備係長：そのとおり。

市 民：観光シーズンの桜の時期など込み合う時の通行量はこんなものではなく、裏道に車が回ってくる。普段は混まないと思うが、そういう休日などの混雑時の調査はしていないのか。

センター整備係長：昨年の交通量調査は、平常時に実施した。今年は交通解析調査を実施するが、休日にも実施する予定である。

市 民：では、まだ実施していないのか。

センター整備係長：まだ実施していない。

市 民：タウン誌か市の広報か記憶が定かでないが、城山トンネルが混雑するので、そこをなるべく通らないよう周知する記事を目にした。それで交通量が大幅変ってきたと感じている。この数字もそういうことを考慮しているのか。

センター整備係長：市道 2 1 9 7 廃止後は、そこを通行していた車両がすべて幹線道路を通行するという考えで廃止後の数字は計算している。

市 民：芸術文化創造センターで、こういうことをしたいという話があったが、芸術文化創造センターが建って、それが出来るというように話がつながっていない。市民会館や今ある他の施設を使って、やらなければいけないことはやらなければいけない。それがやれていない。器を造ったからやれますという言い方をしているが、それが見えてない。器を造ったは良いが、それが出来ないとなるとお金の無駄遣いだ。今までできなかったことが、器を作るとなぜできるようになるのか。今まで、なぜできなかったのか。

文 化 部 長：今のご意見は貴重なご意見だ。我々も同じ考えで、施設整備と文化事業の充実という面に取り組んでいる。市民会館は建ててから50年以上経過しているが、市民会館が出来てから、小田原は市民の文化活動が非常に充実していた。また事業を展開する組織も非常に充実していた。さらには昭和40年代、50年代には、コンサートなども充実していた。市民会館は貸館だけの機能ではなく、様々な機能を有していた。その後、バブル崩壊を受け、市の財政が厳しくなってからは、文化事業、自主事業が細っていった時期があった。また民間の興行も開館当時は、小田原駅に近く、西からも東からもお客さんが来た時代には、市民会館を選んでいただいた時期があった。その後近隣に新しい施設が出来てきたことによって、そういった施設が選ばれ、市民会館での事業の本数も、相対的に減っていった時期があった。このままではいけないと、復活させる試みを私たちもしてこなかった訳ではないが、財政状況が許さない中で文化事業を充実させるわけにはいかなかった。しかし、ようやくここで芸術文化創造センターのオープンに向けた具体的な目標が出来た中で、ここ三年間の中で述べると、今まで出来ていなかった小中学校へのアウトリーチ、音楽などの様々な体験を学校の現場に持ち込んで、子供たちに身近にいい音楽を聴いてもらう事業を展開しており、約3倍に拡大してきた。これは広く理解を得て事業予算を確保したり、あるいは他の支援をいただいたりしながら取り組んできた。確かに、これまでにはやるべきだということはおっしゃるとおりで、我々の努力が欠けていたのかもしれない。このままではいけないというところから我々はスタートしている。施設を造るためではない。ソフトありきである。市民の皆様の活動がさらに充実して、芸術文化に身近に触れ活動していただけるためのハード整備である。今のご発言の方と同じ気持ちで取り組んでいる。

市 民：道路対策について質問する。センターの整備には大賛成である。しかし、道路については非常に問題が多いと思う。センター南側の道路の計画は、車道3m、歩道1mで無理がある。例えば、私の家内は歩行が自由ではないので、現在の道路は大変すばらしいウォーキングコースとなっているが、これに代わるよう南側道路も整備してもらいたい。子育てに欠かせない乳母車の幅は45cmである。車いすは幅が66cmある。これで歩道の幅1mを超えてしまう。人間の肩幅、私が40cm。歩道1mはいかにも無理がある。さらに狭い道路に自転車も入ってくる。最近の自転車のマナーは良くないので、これが事故のもとにならないか。交通の専門家である警察、あるいは消防署が本当にこの構造で良いと言っているのか再度確認したい。さほど交通量の変化はないとのことだが、高齢化が進み緊急車両の

通行が増えるはずだ。3 mの一方通行の車道では、幅が狭いということで、対応に窮するのではないか。タクシーが入ってきたり観光バスが入ってきたり、そうならないと施設が活発化しない。南側生活道路については、そういうものについて、もう少し冷静に再度検討していただきたい。そうしないと、南側道路に面して住民もおり、車いす、乳母車を使う市民もおり、本当に問題が無いか、事故を起こせば当事者責任になってしまうので、施設がにぎわう場、集う場としてとして考え、私の要望を言えば、現在の倍の幅員で再検討をお願いしたい。

センター整備係長：我々の考えは、南側道路を生活道路として、通り抜けの車をなるべく抑制したい。そして、沿線にお住いの方のことを考慮し、救急車や消防車などの緊急車両の通行を確保したい。そこで、幅員4 mで、車道3 m、みなし歩道1 mという結果となった。ただし、今大事なお話があった。歩行者の安全対策、車いすやバリアフリーへの配慮、これについては大きな宿題である。宿題についてはどこかで答えなければならないが、残念ながら、本日の段階では、こうしますとはお答えできない。現在調整をしており、7月2日の交通に関する地域説明会では、方向性をお示ししたいと考えている。いずれにしても、歩行者の安全確保は考えていく。緊急車両の通行については消防本部に通行できることは確認済みである。警察については、現在協議中であり、市道2197の廃止も含め、やり取りをしている。

文化部 副部長：通過交通は出来る限り抑制したいという話をしたが、これはこのセンターを建てる時に、沿線の皆様には用地交渉をはじめ様々のご協力をいただいた。沿道の方々には、この道路の通過交通の増加や道路の拡幅を望んでいない。センターの整備には、沿線の皆様のご協力があったからこそここまで来たことをご理解いただきたい。市道2197は廃止であって、その代替機能で南側生活道路を整備するものではない。南側生活道路を拡幅することは、逆に通過交通を呼び込んでしまい、沿線の方々のお気持ちとかげ離れたことになってしまう。

市 民：今の話は、そちら側の論理ということになると思うが、例えば抑制とはどのような方法でやるのか。遮断機を付けるのか。現実問題としてどのようにやるのか。それは市民との衝突が相当起こると思う。そこは良くご承知おきいただきたい。それから、歩行者、車いす等の安全対策は宿題として考えているということなので、それを信じて待ちたいと思う。そして、生活道路ということであるが、市道2197の廃止と別のことだというと、近隣は誤解する。市道2197の廃止で犠牲を強いられる人がいる。誰でも通れるようにするのが道路である。その辺もお忘れなく。

市 民：私もずっと車を運転してきたが、南側道路は安全と言えるのか。車を通

さない、通さないと言っても、必ず車は入ってくる。皆さん運転免許証をもっていらっしゃるでしょう。この道路の安全を確保しますと言うが、この道路に不安を感じないか。沿線の住民がこの道路で十分だとおっしゃったが、さっきの方が言った通り、遮断機でも付けないと車は入ってくる。生活道路に車を通さなさいという絵に描いたぼた餅を見せるとは考えられない。皆さんは本当に安全と考えているのか。それから、責任者は誰か。本当の責任者は誰か、主人の車いすを押しながらずっと考えている。1 mは狭いから、向こうから人が来たらどうしようと考えている。造るからには安全にしてほしい。一度責任者を呼んでほしい。安全な道路を造りたいからここに集まっている。これは意見だ。

市 民：先日の幸地区の自治会長への説明の資料では、新道の交通量が書いてあった。今日は、何も書いていない。どういうことか。市役所はどうかしている。新道の交通量を出してほしい。

センター整備係長：新道の交通量は把握していない。

市 民：ふざけてはいけない。新道に車が入ってきてしまう。新道は交通事故多発地帯だ。交通事故の件数は調べてあるのか。

センター整備係長：事故の件数は調べてある。

市 民：数字が出てこないのは、どういうことか。肝心の数字が抜けている。信号のない新道に車は入ってくる。

市 民：三の丸小学校が近くにあり、通学路にもなっているのではないか。

センター整備係長：市道2197も南側生活道路も通学路には、なっていない。

市 民：幅員4 mで歩道1 mならば、片側通行にしかないが、そのような道路は無駄だ。市道2197を廃止して、造る道路がこんな狭い道路だ。結局はセンターを造るために道路を廃止する。見え見えだ。こんな道路でごまかして、これで終わり。それで市長はよしとしている。

市 民：この前もお願いしたが、危険度の話とか、宮小路に行く方法とか、道路や都市計画の話を知りたい。これは文化部長の判断だけではできないはず。生活道路と言っても、全部小田原市民の税金から整備費は出ている。私たちが住んでいる新道も生活道路だ。他の道路も同様に生活道路なので、沿線の意見だけでは話が進まない。

市 民：なぜ、南側の道路は生活道路として、保護されなければならないのか。大型バスでの来場者もある芸術文化創造センターに、この南側道路はふさわしいのか。自転車の通行も気になる。自転車には怖い思いをしている。こういう人たちのことをどのように考えているのか。また警察と話し中とのことだが、なぜ今話し中なのか。もっと早く話すべきでは。なぜ文化部だけが来ているのか。道路課は来ないのか。あなた方が道路の話ができる

訳がない。とても心配している。これ以上小田原の恥をかかないでほしい。

センター整備係長：交通について続けて意見が出たが、我々からの説明が不足している部分については反省している。歩行者の交通安全確保については、先ほど宿題であると述べたが、今一生懸命取り組んでいる。その他の課題も検討している。芸術文化創造センターにはたくさんの人に来ていただきたいが、周りに迷惑をかけることはしたくない。庁内には道路や色々な部署があり協力して取り組んでいかなければならない。次の説明会には所管も一緒に臨みたい。

市 民：エレベータが2階止まり。エレベータでは、チケットの代が安い3階、4階に行けないのか。階段で3階、4階に行くのはきつい。事故が全くないとは考えられないので、避難経路はどのようになっているのか。出口が1か所しかなく、将棋倒しになってしまうのではないかととても心配している。

センター整備係長：ご指摘のとおり、今の基本設計では、エレベータは2階止まり。3階、4階はエレベータではいけない。今年度の実施設設計で解消していきたいと考えている。非常口は、1階の南側にも北側にも用意している。

市 民：大勢の人が非常口に殺到しても大丈夫なのか。

センター整備係長：大丈夫。動線もしっかりと確保してある。

市 民：停電時はどうか。

センター整備係長：停電時は、非常用の照明がつくことになっている。

市 民：芸術文化創造センターという名称を小田原文化ホールとか、もっとシンプルにした方がいい。こんな豪華な建物を造る必要はない。

芸術文化担当課長：今の市民会館が小田原のまちの芸術を次の世代に伝えるために何ができるのだろうかという問題がある。今の市民会館では構造的にできないことがかなり出てきた。単なる市民会館の建て替えではなく、新たな芸術文化創造の拠点として施設を整備していこうと、専門家や市民の皆さんとの協議の中で出てきた結論である。ものを作ること、特にスタジオなどはいらないだろうとの意見がある。確かに作ることはスタジオでなくとも出来ないことはない。その代わり大ホールを市民の皆さんが1ヶ月間利用できない状態になる。これは大ホールを利用する皆さんにすごく不便をおかけすることになる。それで別の場所が用意できるのが大スタジオになる。それは一年中、小田原の新しい施設でもものを作り続けていくことができることは予算的にも人員的にも難しいかもしれない。その時にその空間をどのように使うのか。例えば地元の小劇場の機能を持った施設はない。それが出来るようにしよう。新たな創造の拠点になるということである。そこで芸術文化創造センターという名称にした。基本計画の中で、こういうことを目指し

ていく、そして、一つずつ実現していきたい。財源の話ですれば、国もこういう助成に目を向け始めている。これを活用することで市費をなるべく使わないで、成果を市民の皆様を示すことができるのではないかと考えている。

市 民：色々と問題が出てきて、市の方もお困りかと思う。こういった大きな施設を造るときは関係部署、例えば、道路とか都市計画とかと調整をして、了解を得ていかなければならないと思うが、道路課からはこれでいけると早い段階から了解を得ていたのか。また、警察とも協議をし直しているとのことだが、警察から早い段階で了解を取っていたのか。

センター整備係長：南側生活道路については、道路構造令等に適合しているとの確認はしてある。警察との協議は急に始めたのではなく、芸術文化創造センターを整備するという計画の段階から話はさせていただいている。ただ正式な協議は今回が初めてである。

市 民：警察と話を始めたのはいつ頃からか。それで、これで大丈夫というニュアンスが伝わって進めていると思うが、それは、いつ頃なのか。

センター整備係長：警察へ相談を始めたのは平成23年頃で、我々は、ここで感触は得ていた。

市 民：その後、平成24年、25年と警察とは親密に話をしていたのか。

センター整備係長：計画がまとまる毎に警察とお話はさせていただいた。その中で、道路の整備時期の平成26年度に相談をしてほしいとの話をいただいた。

市 民：警察も、ほぼ了解のニュアンスで進んでいたのか。

センター整備係長：我々は、そのように捉えていた。

市 民：先ほどの交通量調査で1300台との数字が出てきたが、裁判所と鐘楼のある道は、休日になると国道側からお堀端通りへ、進入禁止の交通規制がかかると思うが、交通規制がかかる休日ではなく平日で数値を出している。これは、シミュレーションとしておかしいのではないか。芸術文化創造センターは休日に多くのお客さんが来るはず。休日ではなく、平日にシミュレーションをするのはどうか。そういう認識はないのか。

センター整備係長：ご指摘の休日の進入禁止の規制は、現在ない。交通量は平常時を考える。休日は今年度調査をする。

文化部 副部長：交通センサスによると附近の交通量は、休日よりも平日の方が高い結果となっている。これを踏まえて、平日に調査を行っている。

市 民：市では、平日の方が通行量は多いと考えていることで分かった。裁判所と鐘楼のある道、国道1号のところには両側にガソリンスタンドがあって、昔、市が土地を買った。何でこんなところ買ったのか市の方に聞いたら、公には出来ないが、ここに大手門を造るんだと言っていた。大手門を造っ

たらこの道は廃道だと言っていたが、そうなると道が全部なくなってしま
う。私が市の方に聞いたので、皆さんはご存じかと思うが、鐘楼のある道
が将来なくなることをご存じでこのシミュレーションをやっているのか。
ちょっとおかしくないか。先々のことを隠し隠しその場しのぎで分散の話
をしている。おかしいのではないか。

文化部 副部長：今おっしゃった裁判所前の道、ここに大手門を造って廃道にするという
計画はない。

市 民：先ほど、設計図を見て、災害時の避難の時に、出口が無い、出口が少ない
との話をしたが、今の市民会館だと、入口を入れて広い間口があって、
エントランスになっている。この図を見ると入口がカフェテラスでうまっ
ていて、大ホールに行くには廊下を通過してやっとたどり着くようになって
いる。災害時の動線は確保してあると市の方が説明したが、これでは今の
市民会館より危ないのではないか。今の市民会館よりも安全であるという
認識なのか。

センター整備係長：建物は建築基準法、消防法の適用を受けて、設計をしており、安全は確
保している。

市 民：市民会館より安全か。それともそうではないのか。

センター整備係長：現在の法令の適用を受けており、安全である。

市 民：三の丸交番前の信号は、今までどおり時差信号のままなのか。

センター整備係長：警察と協議中である。

市 民：駐車場の入口と出口はどのようになっているのか。36台が同じ所から
出入りするととなると一方通行が渋滞すると思うが。

センター整備係長：駐車場の出入り口は一つだが、スタッフ用で一般の利用者の駐車は想定
していない。出入口から国道1号までは交互通行なので、渋滞が発生する
とは考えていない。

市 民：利用者用の駐車場が無いので、附近の駐車場での渋滞対策を考えてほし
い。今の南側道路は、交互通行でも1台止まっているだけでとても怖い思
いをしている。もう一度道路の設計を考えてほしい。安心して歩ける道に
してほしい。

市 民：示されたこの交通量のデータ。これは全く信用できない。これはうわべ
だけ。なぜかと言うと、一度市道2197を通行止めにしてみて、実際に
やってみないとダメ。コンピュータで分散させて出たデータ。こんなもの
は実態に何にも即していない。こんなものを市民の前に出して説明しても
信用できない。基本設計でエレベータが2階までしか行けない。これを実
施設計で検討する。素人のようではないか。新居設計は世界でも有名な設
計者なのに、それほど素人に設計を頼んでいるのか。恥ずかしくないのか。

それで3月の議会で実施設計の予算が通っている。申し訳ないが小田原市は詐欺をやっている。こんな設計をやっていたら、新居設計は有名だが信用できない。用地を決めてから、誰もがその中でどうするのか知恵を出すもの。それを建物を目一杯造ってから、道路をどうするか。そんな試案的な考え方がそもそもおかしい。まずは周辺道路をどのように確保していこうかということが知恵だ。そこからどれだけの建物ができるかと考えるのが普通だ。小田原市は二宮尊徳の教えを言っているが、何も教わっていない。市長は市民の生命・財産を守ると言っているが守っていない。こんなことで、何が芸術文化創造センターだ。それから、リハーサルスタジオが無かったら大ステージを1ヶ月休む。日本全国、リハーサル室が無くとも、ステージをやっている。何を考えているのか。よく考えてほしい。テレビの取材が来たらお笑いものだ。東京の人にこの図面を見せた。小田原はこんなものを造ってどうするんだと言われた。駐車場もない。大型バスも止められない。有名人のイベントがあったら大型バスが5台は来る。どこに駐車するのか。こんな過酷な条件の小田原に有名人は来ない。国道一号から資材を運ぶ大型車が入って来る、バックする。それで一方通行で規制する規制するって、どのようにやるのか。消防自動車は自動車学校のクランクで練習するのと、ホールが建って建物が31mの壁になって視覚が悪い状況とは違う。まして、みなし歩道にポールを立てて、その時には、ポールを移動するのか、踏み倒すのか、どうするのか。そのくらい考えられないのか。お粗末すぎる。

- 市 民：最後に一つだけ言わせてほしい。南側の道路の通行は車だけではない。小さい子供から80過ぎの足の悪い方もいる。その人はどうするのか。
- 文化 部 副 部 長：歩行者の方の安全対策は、充分必要性を認識している。これはしっかり検討して、対策を講じてまいりたい。